

(11)九州



九州地域では、景気は足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる。
- ・ 個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

前回からの主要変更点

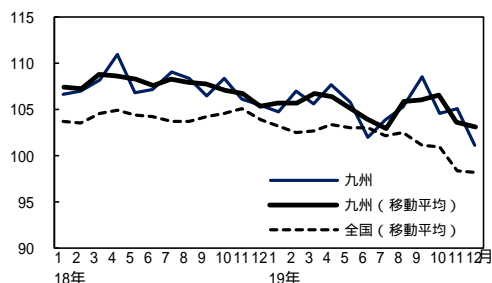
	前回(令和元年11月)	今回(令和2年3月)
景況判断	緩やかに回復	足もとでは、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる</u>
鉱工業生産	このところ緩やかに増加	弱含んでおり、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響もみられる</u>
個人消費	緩やかに持ち直し	足もとでは、 <u>新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる</u>

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる。

10 - 12月期には、電子部品・デバイスは、半導体集積回路(CCD・その他)固定コンデンサ等が減少した。輸送機械は、普通乗用車等が減少した。食料品は、減少した。汎用・生産用・業務用機械は、金型等が増加した。化学・石油石炭製品は、減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		7 - 9月期	10 - 12月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	13.6	12.2	6.4	7.1	5.7	1.5
輸送機械	13.5	4.3	0.9	2.1	3.6	7.1
食料品	12.2	0.4	1.9	3.7	0.5	2.3
汎用・生産用・業務用機械	12.2	12.4	3.6	9.8	9.5	11.6
化学・石油石炭製品	10.0	8.3	3.5	0.1	2.1	2.1
鉱工業	100.0	0.8	2.3	3.7	0.5	3.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10 - 12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数(RDEI(消費))

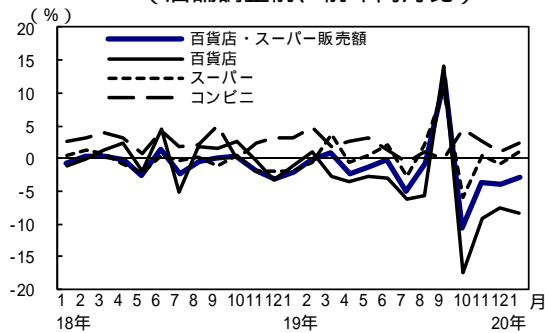
10月は前月比9.1%減、11月は同0.0%増、12月は同0.4%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、全体的に動きが鈍く、前年を下回った。11月は、全体的に動きが鈍く、前年を下回った。12月は、全体的に動きが鈍く、前年を下回った。1月は、前年を下回った。

スーパーは、10-12月期は、衣料品の動きが鈍く、前年を下回った。1月は、前年を上回った。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2019年 10-12月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月
RDEI(消費*1)	6.9	9.1	0.0	0.4	
百貨店・スーパー(*2)	5.8	10.6	3.8	3.9	3.0
百貨店(*3)	10.9	17.6	9.2	7.6	8.4
スーパー(*3)	2.0	6.0	0.5	0.9	1.1
コンビニ(*3)	2.7	4.5	2.7	1.0	2.3
乗用車(*4)	15.7	22.8	12.3	12.0	14.1
(季節調整値)(*4)	20.9	30.1	15.9	6.8	0.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。2020年1月は速報値。

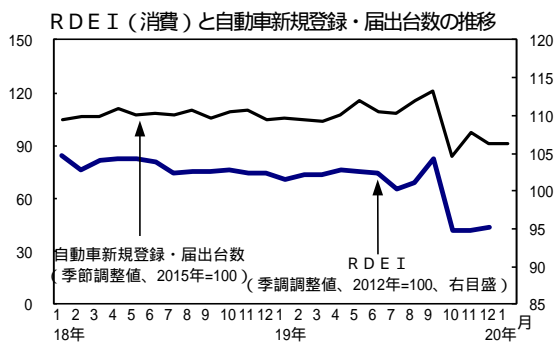
3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

2020年1月は速報値。

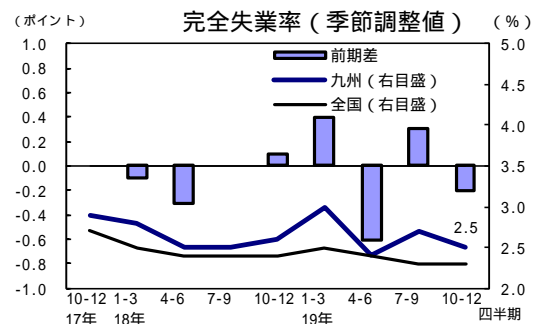
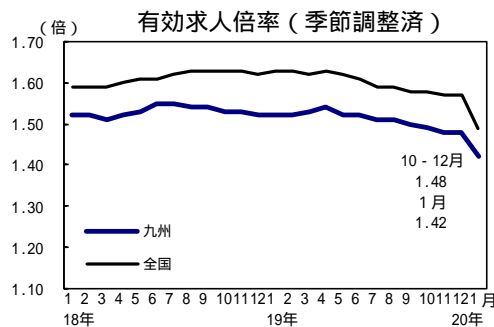
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (2020年2月調査) 景気判断理由の概要

11. 九州

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連		・消費税引上げの影響は少なくなってきたものの、暖冬のため、アパレルや服飾雑貨の冬物防寒用品の動きが鈍く、加えて、新型コロナウイルスの影響で来店客数の減少傾向が止まらず、厳しい状況が続いている(百貨店)。
		×	・新型コロナウイルスの影響がかなり出ており、韓国、台湾、東南アジア方面以外のハワイ、グアムにもキャンセルが出始めている(旅行代理店)。
			・新型コロナウイルスの影響で、トイレットペーパーやティッシュペーパー、洗剤、マスク等が不足している状況で、衛生関連用品の売上が、前年の110%で推移している。外出を控えることで、自宅での団らんが多くなり、スーパーマーケットの売行きが上がっている。この状態が、しばらく継続する(スーパー)。
	企業動向関連		・新型コロナウイルスの影響により、中国協力会社の操業停止で、発注した委託加工品の入荷ができない状況である(一般機械器具製造業)。
		×	・新型コロナウイルスの影響は大きい。特に、中国から商品を輸入して国内流通させる寄託者の受注量の減少は、顕著である(輸送業)。
雇用関連		・2月現在は、前年と変わらないが、内容的には良くなっている。ふるさと納税が前年よりも多く受注があり、維持できている。しかし、商社の話では、新型コロナウイルスの影響で低迷しており、売上が落ち込んでいる状態である(窯業・土石製品製造業)。	
		・新型コロナウイルスの影響により、企業の採用選考活動実施方法が不透明な状況である(学校[大学])。	
その他の特徴コメント			・特に大きな変動はないが、駅前再開発事業も地場企業への恩恵を余り感じられず、雇用が拡大した状況ではない。求人は、減少傾向であるが、閉店する商業施設のテナントからの離職話はない(職業安定所)。 ：新型コロナウイルス問題により、人の動向が悪いため、当業界も動きが低調である。商品が動いていないことで、来客も減少し、下降気味である(美容室)。 ×：新型コロナウイルス感染予防のため、人が集まるイベントが中止になり、ホテルや飲食店への影響は大きく、酒類販売量の減少にもつながっている(その他飲食の動向を把握できる者[酒卸売])。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連		・新型コロナウイルスによる来店客数の減少が起きている(コンビニ)。
		×	・新型コロナウイルスが終息しない限り、景気回復は見込めない(一般レストラン)。
	企業動向関連		・新型コロナウイルスの影響が随所に出ている。消費については関連が薄いものの、出張抑制等による遅れは、今後響いてくることが予想される(電気機械器具製造業)。
		×	・新型コロナウイルスの影響で、ホテル部門の売上が減少している(不動産業)。
雇用関連		・中国市場による低減と思われるが、依然として受注量の激減が続いている。これに輪を掛けて、新型コロナウイルスの影響がどれだけのものなのか、計り知れない状況にある(精密機械器具製造業)。	
その他の特徴コメント			・新型コロナウイルスによる経済への影響が長期化することで、深刻な影響を与え、採用人数の抑制につながる可能性がある(学校[大学])。 ：新型コロナウイルス感染の過剰報道により、客足が遠ざかり、売上に影響することが心配である(家電量販店)。 ×：新型コロナウイルス感染の終息の見通しが立たない状況が続けば、今後の景気悪化が懸念される(タクシー運転手)。

(D I) 現状・先行き判断D I (九州)の推移(季節調整値)

